

# ひだまり



2009  
2月

No.133

～地域の信頼に応えるためにより良い医療の提供を行います～

## 病院基本方針

1. 患者様や家族の方の意志と権利を尊重し、信頼される最良の医療サービスを提供します。
2. 地域の基幹病院として、常に医療水準の向上を目指し、高度・先進医療を積極的に取り入れ、地域の皆様に適正な医療を提供します。
3. 安心して治療に専念できるよう快適で人にやさしい医療環境の提供を目指します。
4. 患者様の個人情報とプライバシーの保護に努めます。
5. 地域の医療機関との連携を進め、連携機能と機能分担を明確にし、地域医療の向上に努めます。
6. 医療の質、患者様へのサービスをさらに向上させるために、弛みない研究と幅広い教育・研修に励みます。
7. 全職員の経営への参画意識を高め、職員が一体となり病院経営の健全化に努め、また、働きやすい環境、業務体制を確立します。

## 『細菌検査紹介』

中央検査科 石原美弥子

細菌検査でやっていることは刑事ドラマに出てくる鑑識という仕事に似ていると思います。炎症を起こしている犯人（細菌）を見つけるのが仕事です。犯人は小さいので、現場（炎症を起こしている場所）にいるはずですが目に見えません。そこで鑑識（臨床検査技師）は現場のサンプル（検体）を採っているんな事をします。



まずサンプルを顕微鏡で観察します。これはグラム染色と言って細菌を種類によって紫と赤に染め分ける手法を使用します。染色自体は数分で出来ますので、一番お手軽 and 安価で情報を多く返せる検査です。菌種によって形に特徴がありますので、顕微鏡の観察で犯人像を絞ります。同時に多くの白血球が出ていれば炎症の有無や新鮮な検体であるかどうかも分かります。

次に犯人の名前を確定するために培養をします。培養は時間がかかるため結果が出るのに最低2日はかかります。時間はかかりますが、犯人の確定とどんな薬剤が効くのか調べる為には重要な検査です。

この他にも遺伝子検査という技術もあり迅速に結果を出せますが、今のところ当院で出来るのは結核菌とそれに類する他2菌種のみに限られています。他菌種でも出来る技術はありますが、まだまだ高価な検査で一般の市民病院で行うレベルではありません。

これら細菌検査は現場のサンプル採取によって結果が左右されてしまうという弱点があります。直接病院スタッフが現場のサンプルを採る場合はよいのですが、患者さんが自力でサンプルを出さなければならぬ場合は注意が必要です。痰を例にとりますと、同じ口から出たものでも、唾を検査しても病原菌は出てきません。犯人が見つけられないのです。現場には犯人とともに、犯人と戦っている白血球も多く居ますので、良いサンプルはそれら細胞により濁っています。正しい結果を返すためにも患者さんのご協力が必要な検査でもあります。



もう一つ結果に影響が出るのが抗生剤使用後のサンプルです。抗生剤によって犯人が弱っていると見つけられません。ドラマにも出てくる刑事の「現場は荒らされてないだろうな」は細菌検査にも言えることです。